

芸術科 「音楽Ⅰ」	単位数	2 単位	必修・選択	選択必修
	対象学科・学年 ・コース	普通科 1 年 (特進・選抜・普通)	使用教科書 副教材	教育芸術社 MOUSA 1 啓隆社 MUSIC NOTE、高校生の歌集 つどい

学習目標 【学習指導要領】	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。			
到達目標	①歌唱や楽器演奏などによる表現活動および鑑賞活動の幅広い学習を通して、音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を高めることができる。 ②感性を高めて音楽の良さや美しさを感じ取り、それを生かして創造的に表現することができる。 ③我が国や西洋音楽を含む諸外国の音楽を学習し、それぞれの音楽文化の特性や良さを感受すると共に、多様な音楽観の育成を図る。 ④音楽を構成している要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って、解釈したり考えたりし、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わわせる。			
評価規準 評価方法	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
	音楽を愛好し、音や音楽に関心をもち、意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り、創造的な音楽活動の工夫をする。	自己のイメージをもち、創造的な表現をするための技能を身に付けている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
	・授業態度・出席状況 ・学習の取り組み状況（観察・聴取） ・学習プリント作成状況	・学習の取り組み状況（観察・聴取） ・実技課題	・学習の取り組み状況（観察・聴取） ・実技課題	・学習プリント ・鑑賞カード提出

年間授業計画

期	月	単元・題材・教材等	学習内容・要点等	評価方法
一 学 期	4	オリエンテーション 歌の楽しみ ・校歌・手紙・少年時代・ ・世界に一つだけの花 ・故郷・さとうきび畑	・年間の音楽の授業内容を説明 ・歌詞の意味をよく理解し、自校を愛する心情を養う。 ・正確なリズムと音程で、楽しく歌う。 ・正しい姿勢と腹式呼吸で発声できるようにする。 ・歌曲に関心をもって取り組み、積極的に声を出して歌う。	・観察・聴取 ・実技課題
	5	アカペラに挑戦しよう ・ふるさと・蛍の光	・声部の役割を理解しそれらを生かしながら、表現を工夫して合唱する。	・観察・聴取 ・実技課題
	6	世界の音楽 イタリア音楽 ・'O sole mio ・Caro mio ben	・発声の姿勢、発音について理解する。 ・発声に気をつけながら、のびのびと歌唱表現を工夫する意欲を育てる。	・観察・聴取 ・実技課題
	7	音楽理論Ⅰ ・楽譜・音名・拍子	・楽譜上での基礎的な知識及び法則を習得する。 ・ソルフェージュの伸長を図り、階名唱がスムーズ	・学習プリント

			にできるようにする。	
二 学 期	9	郷土の音楽Ⅰ ・かえるの歌	・三線の歴史、各部名称、持ち方、姿勢、奏法などを正しく理解し、演奏できるようにする。	・観察・聴取 ・実技課題進捗状況
	10	・ていんさぐぬ花 郷土の音楽Ⅱ ・島人ぬ宝	・簡単な開放弦の奏法から取り組み、演奏することの楽しさを味わせる。	
	11	・安波節 音楽の流れⅠ 諸民族の声と音楽と日本の声と音楽 ・世界の音楽めぐり（声） ・茉莉花・アリラン ・日本の伝統と芸能	・弾き歌いに挑戦し、郷土の音楽の良さや美しさを理解する。 ・諸民族の音楽における様々な音楽から音楽の多様性を捉える。 ・諸民族の声の音楽と日本民謡を中心とした民族芸能を比較して音楽文化の共通点・相違点を理解する。	・観察・聴取 ・実技課題進捗状況
		音楽の流れⅡ ポピュラー音楽のルーツ ・綿摘みの歌 ・誰も知らない私の悩み ・愛がすべて	・曲の雰囲気把握しながら、のびのびと歌唱表現ができるようにする。 ・ポピュラー音楽の歴史的背景や系譜をたどりながら日本や諸民族の音楽と比較する。 ・音楽の歴史的な流れから今日の日本の音楽の音楽文化と生活や社会とのかかわりを考える。	・観察・聴取 ・鑑賞カードの提出 ・観察・聴取 ・学習プリント ・観察・聴取 ・鑑賞カードの提出
	12	音楽理論Ⅱ ・音名 ミュージカル音楽と映画音楽 ・ロメオとジュリエット ・Tonight・my fair Lady	・楽譜上での基礎的な知識及び法則を習得する。 ・DVD鑑賞で曲の雰囲気をつかみ、興味・関心をもたせ理解する。 ・発声と発音に留意しながらのびのびと歌う。 ・楽譜上での基礎的な知識及び法則を習得する。 ・楽器演奏の伸長を図れるように工夫する。 ・「West side story」を鑑賞し、ミュージカルについて興味・関心をもたせ理解する。 ・楽曲の特徴を理解し、美しさを味わう。	・学習プリント ・観察・聴取 ・学習プリント ・観察・聴取 ・鑑賞カードの提出
三 学 期	1	絵画と音楽のかかわり ・ポロネーズ ・フィンガルの洞窟・海 ・月に憑かれたピエロ	・音楽と絵画が互いにどのように影響し合って発展してきたかに目を向けながら音楽活動を行う ・西洋音楽史全体における音楽と書芸術のかかわりを考える。	・観察・聴取 ・鑑賞カードの提出
	2	私の「メリーさんのひつじ」 オリジナル CM ソングを作ろう 1年間のまとめ	・音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、イメージを持って変奏曲をつくる ・ハーモニーに合った旋律をつくり、反復、変化、対照などを工夫して、その旋律にあった副次的な旋律を付け、イメージを持って音楽を作ることができる。	・観察・聴取 ・作品発表
	3	音楽理論Ⅲ 1年間のまとめ	・楽譜上での基礎的な知識及び法則を習得する。 ・これまでの学習を振り返り、次年度に向けて意欲を高める。	・観察・聴取 ・学習プリント

芸術科「音楽Ⅱ」	単位数	2 単位	必修・選択	選択必修
	対象学科・学年 ・コース	普通科 2 年（普通） 普通科 3 年（特進・選抜）	使用教科書 副教材	教育芸術社 MOUSA 2 啓隆社 MUSIC NOTE 啓隆社 高校生の歌集 つどい

学習目標 【学習指導要領】	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。			
到達目標	①歌唱や楽器演奏などによる表現活動および鑑賞活動の幅広い学習を通して、音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を高める。 ②感性を高めて音楽の良さや美しさを感じ取り、それを生かして創造的に表現することができる。 ③我が国や西洋音楽を含む諸外国の音楽を学習し、それぞれの音楽文化の特性や良さを感受すると共に、多様な音楽観の育成を図り、主体的な鑑賞の能力を伸ばす。 ④音楽を構成している要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って、解釈したり考えたりし、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わわせる。			
評価規準 評価方法	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
	音楽を愛好し、音や音楽に関心をもち、意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を高めて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り、創造的な音楽活動の工夫をする。	自己のイメージをもち、創造的な表現をするための技能を身に付けている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
	・授業態度・出席状況 ・学習の取り組み状況（観察・聴取） ・学習プリント作成状況	・学習の取り組み状況（観察・聴取） ・実技課題	・学習の取り組み状況（観察・聴取） ・実技課題	・学習プリント ・鑑賞カードの提出

年間授業計画

期	月	単元・題材・教材等	学習内容・要点等	評価方法
一学期	4	オリエンテーション 既習曲歌唱 歌の楽しみ ・校歌・音楽Ⅰの歌唱教材 ・合唱曲	・年間の音楽の授業内容を説明 ・正確なリズムと音程で、楽しく歌う。 ・正しい姿勢と腹式呼吸で発声できるようにする。 ・発声に気をつけながら、のびのびと歌唱表現を工夫する意欲を育てる。	・観察・聴取 ・実技課題
	5	アカペラに挑戦しよう ・Grandfather's Clock ・茶色の小びん	・アカペラに関心をもって取り組み、積極的に声を出して歌う。 ・声部の役割を理解しそれらを生かしながら、表現を工夫して合唱する。	・観察・聴取 ・実技課題 ・実技テスト
	6	諸外国の歌 ・Hey Jude ・Stand by me	・発声時の姿勢、発音について理解する。 ・楽曲の背景、発声の姿勢、発音について理解する。	・観察・聴取 ・実技課題

	7	・Top of the World ・Torna a Surriento(帰れソレントへ) 音楽理論Ⅰ ・音Ⅰの復習(楽譜・音名・拍子)	・諸外国の歌曲に関心を持って取り組み積極的に声を出す。 ・楽譜上での基礎的な知識及び法則を習得する。 ・ソルフェージュの伸長を図り、階名唱がスムーズにできるようにする。	・学習プリント ・観察・聴取 ・学習プリント
二 学 期	9 10 11 12	郷土の音楽Ⅰ ・かえるの歌 郷土の音楽Ⅱ ・島人ぬ宝 ・安波節 ミュージカル音楽と映画音楽 ・オペラ座の怪人 ・戦場のメリークリスマス 音楽理論Ⅱ ・音階・和音(コード)	・三線の歴史、各部名称、持ち方、姿勢、奏法などを正しく理解し、演奏できるようにする。 ・簡単な開放弦の奏法から取り組み、演奏することの楽しさを味わせる。 ・弾き歌いに挑戦し、郷土の音楽の良さや美しさを理解する。 ・DVD鑑賞で曲の雰囲気をつかみ、興味・関心をもたせ理解する。 ・「オペラ座の怪人」を鑑賞し、ミュージカルについて興味・関心をもたせ理解する。 ・楽曲の特徴を理解し、美しさを味わう。 ・楽譜上での基礎的な知識及び法則を習得する。	・観察・聴取 ・実技課題進捗状況 ・観察・聴取 ・鑑賞カードの提出 ・学習プリント ・学習プリント ・観察・聴取
三 学 期	1 2 3	アジアの音楽 ・太湖船 ・故郷の春 ・モリンホール(馬頭琴) ・ガムランの合奏 クラスコンサートに向けて 1年間のまとめ クラスコンサート	・原語の響きと意味に留意して表現する ・民族が大切にしている楽器について考えさせる ・ガムラン合奏に親しむ ・これまで学習したまとめとして音楽会を企画し、独唱、独奏、アンサンブル等の音楽表現を工夫しながら、音楽活動の喜びや楽しさを味わう。 ・グループ発表により、積極性と創造性、鑑賞の態度をはぐくむ	・観察・聴取 ・鑑賞カードの提出 ・観察・聴取 ・実技課題 ・鑑賞カードの提出 ・観察・聴取 ・実技課題進捗状況

学習目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。
------	--

評価規準 評価方法	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
	音楽を愛好し、音や音楽に関心をもち、意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を高めて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り、創造的な音楽活動の工夫をする。	自己のイメージをもち、創造的な表現をするための技能を身に付けている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
	・授業態度・出席状況 ・学習の取り組み状況（観察・聴取） ・学習プリント作成状況	・学習の取り組み状況（観察・聴取） ・実技課題	・学習の取り組み状況（観察・聴取） ・実技課題	・学習プリント ・鑑賞カードの提出

期	月	単元・題材・教材等	学習内容・要点等	評価方法
一 学 期	4	音楽とかかわる仕事 ・結—ゆい— ・ふるさと ・海の声	○それぞれの仕事と関連する鑑賞曲の紹介 ○関連する J・POP の歌唱	・観察・聴取 ・実技課題
	5	音楽理論 I ・和音(コード)	○和音(コード)の仕組みについて理解する ○筆記試験	・学習プリント ・観察 ・筆記試験
	6	様々な表現形態を生かした合奏をしよう！	○曲が完成した時のイメージを持って計画的に練習する	・実技課題進捗状況 ・学習プリント

	7	・ディズニー・メドレー	○全体のバランスを考えながら自分のパートを演奏する ○他者の音をよく聴きながら息を合わせてアンサンブルをする ○実技試験（アンサンブル発表）	・観察・聴取 ・鑑賞カードの提出 ・実技試験
二 学 期	9	Playing the Piano ・ぶんぶんぶん ・めだかの学校 ・こいのぼり・かたつむり ※【1～2曲を選択】	○ピアノの基礎的な奏法を身に付ける ○簡単な童謡が弾けるようになる	・観察・聴取 ・実技課題進捗状況
	10	ピアノで弾き語りをしてみよう 【A】・むすんでひらいて ・ぞうさん ・おばけなんてないさ 【B】・おもちゃのチャチャ ・思い出のアルバム ※【A,Bから各1～2曲を選択】	○楽曲の表現内容を総合的に理解しながら創意工夫して弾き語りする	・観察・聴取 ・実技課題進捗状況
	11	ポピュラー音楽と私たち ・ Hey Jude ・ Take me home ・ Country Roads ・ Happy Xmas(War is over)	○様々なポピュラー音楽に興味をもち、その発展について理解する	・観察・聴取 ・学習プリント
	12	音楽の魅力を言葉で伝えよう —紹介文・批評文—	○各自が好きな楽曲の背景や音楽的な特徴を紹介文にまとめる ○批評文を書き他者と意見交換をし、自身の音楽に対する考え方や捉え方を広げる	・レポートの提出
三 学 期	1	"高校音楽のまとめ —ソロ・コンサートを開こう—	○ソロ演奏を通して、表現することの楽しさや達成感を味わわせる	・学習プリント ・観察・聴取
	2	・ 任意の曲	○発表会を通して、主体的な鑑賞の能力を育む	・実技課題進捗状況 ・鑑賞カードの提出
	3			・実技試験

令和5年度 美術Ⅰ シラバス

教科名	科目名	履修学年	単位数	教科書	
芸術	美術Ⅰ	1学年(選択)	2	116－日文・美Ⅰ－305	
目 標	・美術の創造的な諸活動を通して美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育て、感性を高め個性豊かな表現力と鑑賞の能力を伸ばすと共に、自分の主張を根拠に基づいて言える生徒の育成を図る。 【表 現】 (1) 絵画・彫刻 ア 感じ取ったことや考えたこと、空想や想像などから主題を生成すること。 イ 表現形式の特性を生かし、形体、色彩、構成等を工夫した心豊かな表現の構想を練ること。 ウ 意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫し、創造的に表現すること。 (2) デザイン・工芸 ア 目的、機能、美しさなどを考えて主題を生成し、形や色彩などの構成要素の働きを考え構想を練ること。 イ 意図に応じてデザイン効果を考えて表現形式を選択し、創造的で心豊かな表現の構想を練ること。 ウ 主題にあった表現方法を工夫し、目的や計画を基に表現すること。 【鑑 賞】 ア 美術作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫等を感じ取り、理解を深めること。 イ 映像メディア表現の特質や表現の効果を感じ取り、理解すること。 ウ 自然と美術とのかかわり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて理解を深めること。 エ 日本の美術の歴史や表現の特質、日本及び諸外国の美術文化についての理解を一層深めること。				
教 材	教科書： 日文 高校美術1 その他： 図録各種、参考図書、プリント、DVD・ビデオ教材等				
授業方法及び形態	・教科書や図録、資料集などの視覚教材やプリント教材などを多面的に利用して、実技を中心とした造形学習を行います。 ・スケッチブックやデッサン、絵の具の種類や性質、美術用語について平面や立体など、演習を交えた基礎的な学習を行います。 ・演習的な簡易作品の制作から平面や立体などの長期的計画による、課題作品の制作など計画的に実施します。制作後は作品展示による鑑賞や、コンクール出品、展示会等への出品も行います。 ・基礎的な演習後に、演習を踏まえた課題が提示されます。各自資料及び材料を収集し、作品制作から完成に至るまでの計画やアイディアスケッチ等の構想に綿密に練ることを重視していきます。 ・定期考査は二学期の期末考査のみ実施します。夏休みの宿題もあります。				
成績評価の目安	1・観点別評価に応じた実技課題(作品制作)の評価・・・50～60% 2・定期考査の得点や宿題・ワークシート(自習課題)等の提出物の評価・・・約30～40% 3・毎授業の学習態度や出席状況の評価・・・約10%				
評 価 の 観 点	a.知識・技能		個性豊かに創造的な表現をするために材料・技法を活用して表現する技能を身につけようとしている。		
	b. 思考・判断・表現		感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、個性豊かに発想し創造的に表現を工夫する。心豊かな生き方の創造にかかわる美術の働きや美術文化などの理解を深め、そのよさや美しさを味わうことができる。		
	c. 学びに向かう力・人間性等		美術を愛好し、美術文化に関心を持ち、感性を高めて意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。		

令和5年度 美術Ⅱ シラバス

教科名	科目名	履修学年	単位数	教科書	
芸術	美術Ⅱ	2学年(選択)	2	116－日文・美術Ⅱ－304	
目 標	・美術の創造的な諸活動を通して美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育て、感性を高め個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばすと共に、自分の主張を根拠に基づいて言える生徒の育成を図る。 【表 現】 (1) 絵画・彫刻 ア 自然、自己、社会などを深く見つめて主題を生成すること。 イ 表現形式を選択し、創造的で心豊かな表現の構想を練ること。 ウ 主題にあった表現方法を工夫し、創造的に表現すること。 (2) デザイン ア 自然、自己、社会などを深く見つめて、生活を美しく豊かにするデザインの働きを考えて主題を生成す イ 目的や条件などを基に、デザイン効果を考えて表現形式を選択し、創造的で心豊かな表現の構想を練ること。 ウ 主題にあった表現方法を工夫し、創造的に表現すること。 【鑑 賞】 ア 作品や作者の個性等に関心を持ち、発想や構想の独自性、表現の工夫等について多様な視点から分析し理解すること。 イ 心豊かな生き方の創造に関わる美術の働きについて理解を深めること。 ウ 時代、民族、風土、宗教などによる表現の相違や共通点などを考察し、美術文化についての理解を一層深めること。				
教 材	教科書： 日文 高校美術2 その他： 図録各種、参考図書、プリント、DVD・ビデオ教材等				
授業方法及び形態	・教科書や図録、資料集などの視覚教材やプリント教材などを多面的に利用して、実技を中心とした造形学習を行います。 ・スケッチブックやデッサン、絵の具の種類や性質、美術用語について平面や立体など、演習を交えた基礎的な学習を行います。 ・演習的な簡易作品の制作から平面や立体などの長期的計画による、課題作品の制作など計画的に実施します。制作後は作品展示による鑑賞や、コンクール出品、展示会等への出品も行います。 ・基礎的な演習後に、演習を踏まえた課題が提示されます。各自資料及び材料を収集し、作品制作から完成に至るまでの計画やアイディアスケッチ等の構想に綿密に練ることを重視していきます。 ・定期考査は二学期の期末考査のみ実施します。夏休みの宿題もあります。				
成績評価の目安	1・観点別評価に応じた実技課題(作品制作)の評価・・・約50～60% 2・定期考査の得点や宿題・ワークシート(自習課題)等の提出物の評価・・・約30～40% 3・毎授業の学習態度や出席状況の評価・・・約10%				
評 価 の 観 点	a.知識・技能		個性豊かに創造的な表現をするために材料・技法を活用して表現する技能を身につけようとしている。		
	b. 思考・判断・表現		感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、個性豊かに発想し創造的に表現を工夫する。心豊かな生き方の創造にかかわる美術の働きや美術文化などの理解を深め、そのよさや美しさを味わうことができる。		
	c. 学びに向かう力・人間性等		美術を愛好し、美術文化に関心を持ち、感性を高めて意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。		

令和5年度 自由選択:美術Ⅲ シラバス

教科名	科目名	履修学年	単位数	教科書	
芸術	美術Ⅲ	3学年(自選)	2	116-日文・美Ⅲ-302	
目 標	・美術の創造的な諸活動を通して美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育て、感性を高め個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばすと共に、自分の主張を根拠に基づいて言える生徒の育成を図る。 【表 現】 (1) 絵画・彫刻 ア 自然、自己、社会などを深く見つめて主題を生成すること。 イ 表現形式を選択し、創造的で心豊かな表現の構想を練ること。 ウ 主題にあった表現方法を工夫し、創造的に表現すること。 (2) デザイン ア 自然、自己、社会などを深く見つめて、生活を美しく豊かにするデザインの働きを考えて主題を生成すること。 イ 目的や条件などを基に、デザイン効果を考えて表現形式を選択し、創造的で心豊かな表現の構想を練ること。 ウ 主題にあった表現方法を工夫し、創造的に表現すること。 (3) 映像メディア表現 ア 映像メディアの特性を生かして独創的な主題を生成し、表現の構想を練ること。 イ 主題に合った表現方法を工夫し、仲間と協力しながら創造的な映像メディアを追及すること。 【鑑 賞】 ア 作品や作者の個性等に関心を持ち、発想や構想の独自性、表現の工夫等について多様な視点から分析し理解すること。 イ 心豊かな生き方の創造に関わる美術の働きについて理解を深めること。 ウ 時代、民族、風土、宗教などによる表現の相違や共通点などを考察し、美術文化についての理解を一層深め				
教 材	教科書： 日文 高校美術3 その他： 図録各種、参考図書、プリント、DVD・ビデオ教材等				
授業方法 及び形態	・教科書や図録、資料集などの視覚教材やプリント教材などを多面的に利用して、実技を中心とした造形学習を行います。 ・スケッチブックやデッサン、絵の具の種類や性質、美術用語について平面や立体など、演習を交えた発展的な学習を行います。 ・演習的な簡易作品の制作から平面や立体などの長期的計画による、課題作品の制作など計画的に実施します。制作後は作品展示による鑑賞や、コンクール出品、展示会等への出品も行います。 ・基礎的な演習後に、演習を踏まえた課題が提示されます。各自資料及び材料を収集し、作品制作から完成に至るまでの計画やアイデアスケッチ等の構想に綿密に練ることを重視していきます。 ・定期考査は実施しないが夏休みに宿題を出します。				
成績評価 の目安	1・観点別評価に応じた実技課題(作品制作)の評価・・・約50% 2・宿題・ワークシート(自習課題)等の提出物の評価・・・約30% 3・毎授業の学習態度や出席状況の評価・・・約20%				
評 価 の 観 点	a. 関心・意欲・態度		美術を愛好し、美術文化に関心を持ち、感性を高めて意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。		
	b. 発想や構想の能力		感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、個性豊かに発想し創造的に表現を工夫する。		
	c. 創造的な技能		個性豊かに創造的な表現をするために材料・技法を活用して表現する技能を身につけようとしている。		
	d. 鑑賞の能力		心豊かな生き方の創造にかかわる美術の働きや美術文化などの理解を深め、そのよさや美しさを味わうことができる。		

令和5年度芸術科「書道Ⅰ」シラバス	単位数	2 単位
	学年・学級	1 学年 1、2、3、4、5、6組

1 学習の到達目標等

学 習 到 達 目 標	1 書道における表現と鑑賞の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てます。 2 それと同時に書を楽しむ態度を通して感性を豊かにし、様々な場面に対応する書写能力を高めます。 3 1と2の学習を通して自己を主体的に表現する能力と書の美しさを感じ取る鑑賞の基礎的な能力を伸ばしていきます。
使用教科書・副教材等	書道Ⅰ 教育出版

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学習内容	月	学習のねらい	備 考（学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など）	
1 学 期	1 書の美を求めて ・ 書の分野 ・ 古典とその臨書 ・ 用具 ・ 執筆法・用筆法	4	書の分野、古典とその臨書、用具、執筆法・用筆法について知り、学習の意義とその方法を理解します。 ※「臨書」とは古典を手本として習うことです。	芸術科書道と国語科書写の関連を確認します。	
	2 漢字仮名交じりの書の学習（1） ・ 言葉や詩文を書く ・ 筆による表現の力 ・ よりよい表現を求めて	5	身近な言葉や詩文を題材に漢字と仮名の調和を図り、用具用材や、字形・文字の大きさ等の全体構成を工夫することで自分の意図に基づく表現を試みます。	題材や構成等は各自の感性に基づくものを選択します。	
	3 楷書の学習 ・ さまざまな楷書 ・ 厳正と温雅 ・ 重厚と軽快 ・ 方勢と円勢 ・ 小字の鑑賞と臨書	6	漢字の楷書の古典に基づく学習により書の多様な表現の可能性に触れます。 代表的な楷書古典を鑑賞し、それぞれの古典について作者や時代背景などの知的理解を経て、基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を臨書学習により習得します。	世界史の学習に関連します。 各自の個性を生かすことのできる古典を選択して集中的に学習します。	
	7	これらの活動を総合し各古典の特徴を把握し表現の方法を学びます。			
【課題・提出物等】 1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。 2 提出前の途中経過（試書・中間まとめ・添削を受けたもの等）を記録としてファイルします 3 課題に応じて作品を提出します。					
【1学期の評価方法】 1 提出作品、「学習記録」の記録状況、「学習のまとめ」の内容を中心に用具用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品で60％、「学習記録」と「学習のまとめ」で35％、学習活動への参加の態度で5％の配分で行います。 3 提出作品については漢字仮名交じりの書においては意図した表現に近づくことが出来たか、また漢字の書（臨書）においては対象となる古典の特徴を表現出来たかが評価の基準となります。					

2 学 期	4 ・ 行書の学習 ・ 行書の特徴 ・ 蘭亭序の鑑賞と臨書 ・ 争坐位稿の鑑賞と臨書 ・ 風信帖の鑑賞と臨書	9	行書の特徴について理解を深めます。 代表的な行書の古典を鑑賞し、作者や時代背景等に関する知的理解を経て臨書学習により各古典の特徴を把握することにより行書の基本的な用筆法を習得します。	実用性と芸術性という行書の二つの側面を理解します。 世界史の学習に関連します。 詩句や古典の選択により個性を生かします。 漢字の草書体から平仮名への発展は国語・日本史の学習に関連します。
	楷書・行書による創作篆刻の学習	10	学習した楷書または行書の古典を題材とし習得した技法を生かして創作を行います。 姓名印を刻し創作作品に押印します。	
	5 仮名の書の学習 ・ 仮名の成立と発達 ・ 仮名の種類 ・ 平仮名 ・ 変体仮名 ・ 連綿	11	我が国独自の文字である仮名について成立過程と字源について理解を深めます。 平仮名を中心とした上代様仮名の筆使いに慣れ基本的な用筆法を習得します。	
		12		
	【課題・提出物等】 1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。 2 提出前の途中経過（試書・中間まとめ・添削を受けたもの等）を記録としてファイルします 3 単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い自己評価します。 4 課題に応じて作品を提出します。創作作品は数時間をかけて完成させます。			
【2学期の評価方法】 1 提出作品，「学習記録」の記録状況，「学習のまとめ」の内容，を中心に用具用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品で50%，「学習記録」と「学習のまとめ」で45%，学習活動への参加の態度で5%の配分で行います。 3 提出作品については漢字の書（臨書）においては対象となる古典の特徴を表現出来たか，創作作品においては自分の意図したように表現することが出来たか，仮名については基本的な用筆が習得できたかが評価の基準となります。				
3 学 期	・ 蓬萊切・高野切第三種の鑑賞と臨書 ・ 全体構成の工夫	1	2学期の学習を基に仮名の基本的な古典の鑑賞と臨書を経験し，俳句の散らし書きの創作を行います。	仮名独自の美しさを感じ得ます。 1年間の学習のまとめとして自己を主体的に表現することに取り組めます。
	6 漢字仮名交じりの書の学習（2） ・ 漢字的・仮名的表現 ・ 古名跡を応用して書く ・ 用筆・運筆および用具用材の工夫 ・ 文字の大きさ，配置の工夫	2	1・2学期の漢字及び仮名の古典の学習を基にその表現を応用した漢字仮名交じりの書の創作を行います。 詩文，形式，用具・用材，構成など工夫し漢字と仮名の調和の方法を考え，自分の感性を表現する最良の方法を模索します。	
		3		
【課題・提出物等】 1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。 2 提出前の途中経過（試書・中間まとめ・添削を受けたもの等）を記録としてファイルします 3 単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い自己評価します。 4 課題に応じて作品を提出します。				
【3学期の評価方法】 1 提出作品，「学習記録」の記録状況，「学習のまとめ」の内容，用具用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品で65%，「学習記録」と「学習のまとめ」で30%，学習活動への参加の態度で5%の配分で行います。 3 提出作品については仮名の書の臨書においては対象となる古典の特徴を表現出来たか，仮名・漢字仮名交じりの書の創作作品においては自分の意図した表現することが出来たかが評価の基準となります。				
【年間の学習状況の評価方法】 下記の4つの観点から評価した1学期，2学期，3学期の成績を総合し，年間の学習成績とします。				

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・書道の学習においてはまずよく見るのが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。 ・得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成、また作者や時代背景といった様々な要素について考え分析する姿勢が大切です。 ・技法の習得は主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく1枚1枚、1字1字について自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習することが大切です。そのために「学習記録」はていねいに書きましょう。 ・創作においては「今自分は何を表現したいか」を第一に考え、詩文や用具などを積極的に選択していきましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使いましょう。特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。 ・作品ファイルはきちんと整理しておきましょう

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「関心・意欲・態度」、「芸術的な感受や表現の工夫」、「創造的な表現の技能」、「鑑賞の能力」の4つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	・漢字仮名交じりの書を通して、書写能力を高め、生活に即した書表現に関心をもち、意欲的、主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。 - 漢字の書を通して、書の実しさに関心をもち、意欲的・主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。 - 仮名の書を通して、日本の伝統的な書の美に関心をもち、意欲的、主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。 - 鑑賞活動を通して、書を愛好し日常生活における書への関心を高め、意欲的、主体的にその美しさを味わおうとしているか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・「学習記録」の記入状況 ・作品ファイルの整理状況 ・「学習のまとめ」の内容 ・提出作品
芸術的な感受や表現の工夫	感性を豊かにし、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書のよさや美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫しているか。	・提出作品 ・「学習記録」の記入状況 ・「学習のまとめ」の内容
創造的な表現の技能	- 漢字仮名交じりの書を通して自己を主体的に表現する能力を伸ばし、実用的な表現や芸術的な表現の基礎的な技能を身に付けているか。 - 漢字の書を通して、自己を主体的に表現する能力を伸ばし、基礎的な技能を身に付けているか。 - 仮名の書を表現するために必要な仮名の線の特徴を理解し、基礎的な技能を身に付けているか。	・提出作品 ・作品ファイル ・「学習記録」の記入状況
鑑賞の能力	書が生活の中で果たしている役割、書の文化や伝統を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わっているか。	・「学習記録」の記入状況 ・「学習のまとめ」の内容

3 担当者からのメッセージ

・一人一人の個性を生かし、これを伸ばしていくことを学習の第一目標としています。練習する古典や題材とする語句など多くの場面で「自分で選ぶ」ことになります。自分を最高に生かせる選択をしていきましょう。 ・「何が出来ているか」より「何が出来るようになったか」を大切にしたいと思います。1時間の中での進歩、単元を通しての進歩、学期を通しての進歩、そして、1年間の学習を通しての進歩が感じられるような学習への取り組みを期待します。 ・書道Ⅰの学習を通して、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになることを希望します。
--

令和 5 年度芸術科「書道Ⅱ」シラバス	単位数	2 単位
	学年・学級	2 学年 3, 4, 5, 6, 組

1 学習の到達目標等

学習到達目標	1 書道における創造的な活動をととして、書を愛好する心情を育てます。 2 書を楽しむ態度をととして感性を高め、書の文化や伝統についての理解を深めていきます。 3 1 と 2 の学習をととして、個性豊かな表現の能力と書の美しさを感じ取る鑑賞の能力を伸ばしていきます。
使用教科書・副教材等	書道Ⅱ 教育出版

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学習内容	月	学習のねらい	備 考（学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など）
1 学 期	一 篆書の学習 1 さまざまな篆書 2 篆書(小篆)の特徴 3 金文(召尊)の鑑賞と臨書 4 篆書による創作と作品の鑑賞	4	篆書とはどのような書体かを知り、歴史的 位置付けを理解します。 泰山刻石の鑑賞と臨書をとおして、篆書(小篆) の特徴を理解し、基本的な用筆・運筆、結構を 習得します。	世界史の学習に 関連します。 古典や題材、構 成等は各自の感 性に基づくもの を選択します。
	二 篆刻・刻字の学習 ■篆刻の学習	5	召尊の鑑賞と臨書をとおして、金文の基本的 な用筆・運筆、結構を習得します。 学習した古典の表現を生かし、篆書の作品を 創作します。 書表現の一分野としての篆刻の意義を理解し ます。 作品に対する効果を考え、姓名印を刻り、押 印します。	
	三 隸書の学習 1 さまざまな隸書 2 乙瑛碑の鑑賞と臨書 3 漢代木簡の鑑賞と臨書	6	隸書とはどのような書体かを知り、歴史的 位置付けを理解します 乙瑛碑の鑑賞と臨書をとおして隸書の基本的 な用筆・運筆、結構を習得し、その特徴を理解 します。 漢代木簡の鑑賞と臨書をとおして木簡の基本 的な用筆・運筆、結構を習得します。	
	4 隸書による創作と作品の鑑賞	7	これまで学習した古典の表現を生かして隸書 の作品を創作します。	
	【課題・提出物等】 1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。 2 提出前の途中経過を必要に応じて記録としてファイルします。 3 課題に応じて作品を提出します。			

【1学期の評価方法】 1 提出作品・「学習記録」の記録状況・「学習のまとめ」の内容・，用具・用材の扱いを含めた学習活動への参加態度などをもとに総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品で60%，「学習記録」と「学習のまとめ」で30%学習活動への参加の態度で10%の配分で行います。 3 提出作品については臨書においては対象となる古典の特徴を表現できたか，また創作においては意欲的に創作に取り組み，意図した表現ができたかが評価の基準となります。 4 期末考査は，篆書および隸書についてその特徴と古典に関する知的理解が主な範囲となります。	
--	--

2 学 期	四 草書の学習	9	草書の成立と歴史的位置付けを理解します。 基本的な草書の学習により，草書の特徴を把握します。 書譜，十七帖の鑑賞と臨書をとおして草書の基本的な用筆・運筆，結構を習得し，両古典の比較により，それぞれの特徴を把握し草書による表現の多様性を理解します。	世界史の学習に関連します。
	1 草書の成立			
	2 草書の特徴			
	3 草書の名跡の鑑賞と臨書			
	五 行書の学習	10	書道Ⅰの学習を基に，行書に対する興味・関心を深め歴史的位置付けを理解します。 さまざまな行書の書風を鑑賞し，行書の表現の多様性を理解します。 集王聖教序・祭姪稿・書譜の臨書をとおしてその表現方法を習得します。 草書または行書の表現を生かし，自ら題材を選んで創作を行います。	書道Ⅰでの学習の発展です。
	1 さまざまな行書			
	2 集王聖教序の鑑賞と臨書			
	3 重厚と軽快			
	■草書・行書による創作と作品の鑑賞			古典や題材，構成等は各自の感性に基づくものを選択します 書道Ⅰでの学習の発展です。
	六 楷書の学習	11	書道Ⅰにおける学習をもとに楷書の多様な表現にふれ，自らの個性を生かす古典を選択して学習を深めます。 学習した古典の表現を生かし，題材や形式を選択して創作を行い相互に鑑賞批評を行います。	古典や題材，構成等は各自の感性に基づくものを選択します
	1 均斉と均衡			
	2 頸直と重厚			
	3 温雅と雄健な小楷			
	4 楷書による創作と作品の鑑賞			
	七 仮名の書の学習	12	書道Ⅰの学習をもとに仮名の種類，特に変体仮名の種類について学習し，理解を深めます。 仮名の書の臨書（主として高野切第一種）や鑑賞をとおして表現技法を習得し，短冊や散らし書き等の形式についても理解を深めます。	書道Ⅰでの学習の発展です。 国語・日本史の学習と関連します。
	1 仮名の種類			
	2 仮名の書の特徴			
	3 高野切第一種の鑑賞と臨書			
	4 高野切第一種の臨書と短冊の書式			
	5 三色紙の鑑賞と散らし書きの学習			
【課題・提出物等】 1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。 2 提出前の途中経過を必要に応じて記録としてファイルします 3 単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い自己評価します。 4 課題に応じて作品を提出します。創作作品は数時間をかけて完成させます。				
【2学期の評価方法】 1 提出作品，「学習記録」の記録状況，「学習のまとめ」の内容，期末考査を中心に，用具・用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品で60%，「学習記録」と「学習のまとめ」で30%，学習活動への参加の態度で10%の配分で行います。 3 提出作品については漢字の書（臨書）においては対象となる古典の特徴を表現できたか，創作作品においては自分の意図したように表現することができたか，仮名については基本的な用筆が習得できたかが評価の基準となります。				

3 学 期	6 小字による表現 7 大字による表現と作品の鑑賞	1	2学期の学習を基に仮名の書による創作を、題材や形式を選択して行います。	古典や題材，構成等は各自の感性に基づくものを選択します。書道ⅠⅡの学習のまとめとして自己を主体的に表現することに取り組みます。生涯にわたり書を愛好する心情を身に付けます
	八 漢字仮名交じりの書の学習 1 さまざまな表現 2 古名跡に学ぶ表現の工夫 3 創作／さまざまな表現の工夫	2	これまでの漢字及び仮名の学習を基に漢字仮名交じりの書の創作を行います。 詩文，形式，用具・用材，構成など工夫し漢字と仮名の調和の方法を考え，自分の感性を表現する最良の方法を模索します。	
	4 生活に生きる書	3	生活に生きるさまざまな書にふれ，これまでの学習を今後どのように生かしていくかを考えます。	
【課題・提出物等】 1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。 2 提出前の途中経過（試書・中間まとめ・添削を受けたもの等）を記録としてファイルします。 3 単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い自己評価します。 4 課題に応じて作品を提出します。				
【3学期の評価方法】 1 提出作品，「学習記録」の記録状況，「学習のまとめ」の内容，用具・用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品で65%，「学習記録」と「学習のまとめ」で30%，学習活動への参加の態度で5%の配分で行います。 3 提出作品については，仮名，漢字仮名交じりの書の創作作品においては，自分の意図した表現をすることができたかが評価の基準となります。				
【年間の学習状況の評価方法】 下記の4つの観点から評価した1学期，2学期，3学期の成績を総合し，年間の学習成績とします。				

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・書道の学習においてはまずよく見ることが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。 ・得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成、また作者や時代背景といったさまざまな要素について考え分析する姿勢が大切です。 ・技法の習得は主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく1枚1枚、1字1字について自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習することが大切です。そのために「学習記録」はていねいに書きましょう。 ・創作においては「今自分は何を表現したいか」を第一に考え、詩文や用具・用材などを積極的に選択していきましょう。
授業を受けるにあたって守ってほしい事項	・用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使いましょう。特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。 ・作品ファイルはきちんと整理しておきましょう

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「関心・意欲・態度」、「芸術的な感受や表現の工夫」、「創造的な表現の技能」、「鑑賞の能力」の4つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	書を愛好し、古典の学習をとおして書の文化や伝統についての理解を深めようとしているか。 漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書の学習をとおして、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・「学習記録」の記入状況 ・作品ファイルの整理状況 ・「学習のまとめ」の内容 ・提出作品
芸術的な感受や表現の工夫	感性を高め、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書の学習をとおして個性豊かな能力を伸ばし、創造的な表現を工夫しているか。	・提出作品 ・「学習記録」の記入状況 ・「学習のまとめ」の内容
創造的な表現の技能	漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書において個性豊かな表現をするために、幅広い表現理論と技能を身につけているか。	・提出作品 ・作品ファイル ・「学習記録」の記入状況
鑑賞の能力	古典の学習をとおして書の歴史や文化について理解し、鑑賞の活動の中で書の美を分析的、総合的に捉え、そのよさや美しさを味わっているか。	・「学習記録」の記入状況 ・「学習のまとめ」の内容

3 担当者からのメッセージ

- ・書道Ⅰで習得したものを基礎として引き続き一人ひとりの個性を生かし、これをさらに伸ばしていくことが学習の目標です。練習する古典や題材とする語句などを選ぶ際、自分の目指す表現を明確にして、それを生かせる選択をしていきましょう。
- ・1時間の中での進歩、単元をとおしての進歩、学期をとおしての進歩、そして、1年間の学習をとおしての進歩が感じられるような学習への積極的な取り組みを期待します。
- ・書道Ⅱの学習をとおして、生涯にわたり書を身近な存在として感じ、これを愛好していく心情が身に付いていくことを希望します。

芸 術

令和5年度年度

芸術書道科

--	--	--	--

「書道Ⅲ」	単位数	2単位
	学科・学年・学級	3年345678組

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1 書道ⅠⅡの学修をふまえて、書道の創造的な諸活動を通して完成を磨き、生涯にわたって書を愛好する心情を育てます。 2 国際化社会におけるわが国の伝統芸術としての書のあり方を理解し、書を尊重する態度を育てます。 3 表現と鑑賞になり、個性豊かな書の能力を高めます。
使用教科書・副教材等	書道Ⅲ（教育出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考（学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など）
第1学期	1 書文化に親しもう ○書と文化 ①書論に学ぶ ②漢字の誕生	4	書が各時代の文化や生活と結びつきながら発展してきたことを理解させ、書論を通して、個人の書に対する考え方や歴史を理解させ、作品の美を構成する諸要素を把握し、自らの表現意欲を高めます。	高校書道ⅢについてⅠⅡとの違いを理論的に学習し認識します。 ビデオ教材で篆書について学習します。 書道年表を用います。 レプリカ、拓本、図版などを活用します。自分の好きな文字を検索するため、五体字類や書道辞典を使用します。 世界史（おもに中国史）の学習に関連します。 篆刻のビデオ鑑賞。篆刻の実践のための印を使用し、語句構成の学習参考書を使用します。
		5	書表現と文字との関係について思考させ、自らの表現手段として書を活用できるか学習させます。	
	2 漢字の書の美を求めて ○篆書の古典に学ぼう ①甲骨文に学ぶ ②金文に学ぶ ③瓦当文に学ぶ ④清時代の書に学ぶ	6	甲骨文、金文の使用された時代背景、文字の用途や造形などに感心を持たせ、金文の美しさ、甲骨文の趣を理解させます。また、清時代の名家の書の関係に着目し、その豊かな表現方法を理解し、自らの積極的創作意欲の向上をはかります。	
		7	さまざまな篆書が持つ特徴的な表現技法の習得、創作の手順や方法を理解し、主体的に語句の選定や用具用材の選択や構成ができるようになり、その美を積極的に伝えることができるようになります。	
	○先人の印に学ぼう		さまざまな作風の印の歴史や時代背景について学習し、作風の差違や印の特徴や美しさを理解し、自信の印の創作が出来るようになります。	
【課題・提出物等】				
1 新三年生のアンケート（経験や意欲、授業に対する希望や要望等）				
2 提出前の途中経過を必要に応じて記録として7ファイルします。				

3 各課題の作品の提出	
【第1学期の評価方法】 1 毎時間の提出作品、ノートに記載状況、備品を含めた用具用材の使用状況、授業時間の学習状況などをもとに総合的に評価します。 2 一学期全体の評価は提出作品60%、学習記録ノート20%、授業時間の学習状況20%の配分で評価します。 3 提出作品 ○篆書の創作学習（意図した表現により近づくことが出来たか） ○古典の臨書（それぞれの古典の特徴をより表現できたか、歴史的背景や作者の感性など感じる事ができたか） 以上の観点から評価いたします。	

第 学 期	○隷書の古典に学ぼう ①帛書に学ぶ ②木簡に学ぶ ③開通張斜道刻に学ぶ ④礼器碑に学ぶ ⑤清時代の隷書に学ぶ	9 隷書の祖形に感心をもち、その特徴や技法を積極的に習得させ、隷書独特の美しさを甘受させます。 10 古隷（礼器碑、曹全碑、乙瑛碑など）の相違点や共通点を自ら発見し、隷書の美を把握し、創作への意欲へと意識を高めます。 さまざまな隷書古典が持つ特徴的な表現技法を習得して、参考作品を通して、古典の臨書や鑑賞により身につけた知識や技法を創造的な表現へとつなげていく家庭を把握させ、創作の手順や方法を理解し、油大敵に語句の選定、構成ができるようになります。	実用的に派生し隷書のと芸術性豊かな証書の二面性を理解します。 隷書派生は中国史、さらには世界史的観点から学習出来ます。 ビデオ（隷書）の鑑賞をします。 ビデオ（創作）の鑑賞をします。
	2 ○草書、行書の古典に学ぼう ①木簡に学ぶ ②李柏尺牘稿に学ぶ ③喪乱帖に学ぶ ④黄州寒食詩卷に学ぶ ⑤明清時代の書に学ぶ ⑥灌頂歴名に学ぶ ⑦李きょう詩雑詠に学ぶ ⑧題跋について	12 草書が成立したと考えられる時代背景や、歴史性の知識を得ることで、代表的な古典の作品作者への知識を理解させます。 木簡や残紙に感心を持たせ、隷書の簡略体として実用化された行、草の特徴や技法を習得させ、実用書としての美しさを知的に理解させます。 理論的知識を経ての臨書実践学習により、古典の持つ意義、特徴を把握し、基本をふまえて草書の書き方を習得します。 草書の代表作、十七帖と書譜の臨書により、草書独特の運筆方法やリズム感を体得します。他の書体との比較を通して、草書の特徴を感得確認します。 学習した草書の創作を意欲的に行います。目的や用途に即した表現の効果を理解し、くらしに生かす工夫が出来るよう、明清時代の書表現を参考に、主体的に語句を選定し、用具を選択し、積極的に古典の理解を伝えることができるようにします。 題跋について深く感心を持つことが出来、美術館や博物館へ出掛けて実物を鑑賞することへの意義を理解します。	草、行の代表作品の拓本や法帖を使用します。 漢字の草書体から平仮名への移行発展は国語、日本史にも関連します。 ビデオ（細字書法）を鑑賞します。 博物館、美術館誌を使用します。また、それぞれのビデオ鑑賞をします。
【課題・提出物等】 1 書道理論の学習記録ノートの提出 2 ビデオ鑑賞の感想レポートを用紙にまとめて提出します。 3 創作を学習した感想をレポートにまとめて提出します。 4 課題に応じて作品を提出します。創作作品は時間をかけて半切用紙での提出になります。 5 時間内に完成しない作品は途中経過のものを提出します。 6 硬筆検定学習ノートの提出			
【第二学期の評価方法】			

1 各提出作品、書道理論の学習記録ノート、ビデオ鑑賞のレポート、創作学習の感想レポートの提出状況、および備品を中心とした用具用材の取り扱いを含めた授業への取り組み方などを参考に総合的に評価いたします。 2 学期全体の評価は提出作品で60%、学習記録ノート、各レポートの評価で20%、授業への取り組み方で20%の配分で行います。 3 提出作品について、臨書（漢字）において実践した古典の特徴をじゅうぶんに表現出来たかどうか、創作作品については自分の意図したように表現出来たかどうか、また半切用紙の使い方がうまく運んだかどうか、仮名においてはいくつかの基本的用筆法を習得理解出来たかどうかの評価の基準となります。 4 行書の成立、特徴と古典についての理論的理解、仮名の成立と発達、平仮名の字源等については授業中簡単な質問をし、解答によって評価いたします。			
第3学期	○楷書の古典に学ぶ ①龍門造像記に学ぶ ②皇甫誕碑に学ぶ ③建中告身帖に学ぶ 3 仮名の書の美を求めて ○古今和歌集に学ぶ ○万葉集に学ぶ ○さまざまな仮名の書表現に学ぶ ①本阿弥切古今集に学ぶ ②古今集切に学ぶ ③香紙切に学ぶ 4 漢字仮名交じりの書の美を求めて ○さまざまな表現に学ぶ ①漢字の各書体に調和する仮名の工夫 ②響き会う行と余白 ③流れと躍動する書線 ○漢字仮名交じりの書の流れ	1 様々な楷書の古典の美を自ら発見しようと心がけることができ、その美を感受し、字形や全体構成について考え、その特徴的な表現方法の獲得に取り組むようにします。 さらに、意欲的に創作に取り組み、表現の構想から完成にいたるまでの充実感や達成感を味わい、自らを高めようとし、古典から感じた事を、積極的に他者に伝えることができます。 法帖について知的理解を深めることが出来、創作手順や方法を理解し、主体的に語句の選定や用具用材の選択、構成をすることができます。 3 蔓殊院本古今集、金沢本万葉集の美しさを感受し、臨書を通して線質や字形の取り方、用筆、運筆などの表現技法を身につけ、古典から感じ取ったことを積極的に伝えることができ、他者の意見をもとに自らの鑑賞を深めることができます。 古筆の書表現と技法に感心を持つことが出来、臨書学習にも意欲的に取り組むことができる。創作にあたり、書風や形式を理解し、用具用材、手順方法を理解でき、主体的に語句の選定と構成が出来ます。 さまざまな表現において、漢字と仮名の調和した漢字仮名交じりの書をの美を感受理解でき、意図やねらいを明確にし、全体構成を配することができます。 思いとことばと書との関係を深く追求します。 漢字仮名交じりの書の変遷を理解し、さまざまな表現形式やその書美に感心を持つことが出来、時代背景や文化と漢字仮名交じりの書の関わりについて理解ができます。 日常の書に興味を持ち、これまでの学習で得た知識や技法を生かし表現ができるとともに、芸術的、実用的といふ目的用途に即した表現技能を身につけます。 。	書道ⅠⅡで学習した、九成宮醴泉銘の資料を準備し、復習するとともに、皇甫誕碑との比較対照をします。 「牛蔵造像記」と「建中告身帖」の法帖を用意し鑑賞します。 書道史年表を用いて、王羲之と光明皇后の時代的位置関係の説明に使用します。 万葉集、古今集を副読本的に使用します。 仮名用紙の見本、布書の見本を用意し、それに関連する参考書類を使用します。 年間の集大成としての作品制作に意欲的に取り組みます。作品は簡単に裏打ちを施して、軸、額、パネルなどに仕上げます。また、先に完成させた姓名印を作品に押印します。
【課題・提出物等】 1 書道理論の学習記録ノートの提出 2 単元に応じた作品の提出 3 姓名印は途中の経過を提出し自己評価をします。 4 漢字仮名交じりの表装作品の提出			
【第3学期の評価方法】 1 提出作品、書道理論記録ノートも記入状況、備品を中心とした用具、用材の扱いを含めた授業への取り組み方などを基に総合的に評価いたします。 2 学期全体の評価は提出物で60%、書道理論記録ノート、姓名印の評価票で20%、授業への取り組み方で20%の配分で行います。 3 提出作品については姓名印とその評価票、表装を施した漢字仮名交じりの書の作品が中心となり			

	ます。
【年間の学習状況の評価方法】 下記の四つの観点から評価した一学期、二学期、三学期の成績を想が追うし、年間の学習成績といたします。	

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	○高校書道Ⅲの学習においてまず認識して欲しいのは、書道ⅠⅡからさらにステップアップした「芸術書道」を学ぶということです。 それは実践書道とも言える、日常文化に即した書道を学ぶということでもあります。 一年生二年生の時に学んだ臨書方法や創作方法、鑑賞能力、さらには表現能力をさらに引き出させるため、やはり古典を確実に学習することが大切になってきます。基本に則って臨書の作品をたくさん学習することは、古人の人間性や時代背景にもふれることになります。 先人が産んだ文字文化に尊敬の念が生まれるとともに、これからさらに育んでゆこうという意識を持つことで、より素直に真摯に作品に向き合うことが出来るでしょう。 ○用筆の技法はおもに古典の臨書で習得できますが、目標を持たずに数を重ねるだけの書き方は効率的な上達方法とは言えません。まずよく古典を見ること。筆先の角度や線質などを細かに観察します。その中から一日の課題を自身で設定し集中的に練習したりすることも良い方法でしょう。また少し進んだ段階になると、自らの感性や創造性を投影した臨書に挑戦するのも楽しい学習かと思われます。 ○書道史的理論についてはノートをしっかり取り、世界史、中国史、古代史などと関連して学習すると良いでしょう。 ○三学年時の創作においては個々の感性を大切に、形にとらわれない書道の楽しみ方をしてください。ただしいたずらに遊びに走らないように「表現」したいことを第一に考え、詩文や用具、用材を丁寧に選択しましょう。 中国から派生し、日本に定着した、揺るぎない日本の文化としての書道を、日本人の感性を持ちながら、国際社会の一員であるとの認識をもって、発展、展開させていって欲しいと切に願います。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	○書道の授業は準備とあと片付けにある程度時間を割かなければなりません。より充実した授業内容になるようにそれらを円滑に行ってください。休み時間を少し早めに切り上げて準備をしたり、授業終了五分前には後片付けに取りかかれるように機敏な動作をいたしましょう。授業開始の時はきちんと着席して準備を完了させておいてください。 ○個人の用具、および学校の備品は大切に扱いましょう。特に硯と筆は毎時間ごとに丁寧に洗ってください。 ○教科書、ノートはきちんと管理しておきましょう。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	○漢字仮名交じりの書を学習したことで、身近な生活の中の表現としての書道を理解できたかどうか。また関心を持って意欲的な取り組みができたか。 ○漢字の書を通して、書の実しさと芸術性に関心を持って意欲的に学習する態度が表れているか。また漢字の書の成り立ちや歴史的な価値をふまえて真摯な姿勢で学習し、習得した技法や感性に喜びを味わおうとしているかどうか。 ○仮名の書を通して日本独自の伝統的な書の美の世界に関心を持つとともに、仮名文化の礎である中国との関係に関心を持ち、意欲的、主体的に学習に取り組めたか。 ○鑑賞を通して、書に対する関心の高まりがあり、それを興味深く味わおうとしているか。	授業への取り組み方や態度。 個人の用具、備品、消耗品の扱い方など。 書道理論ノートの記入状況 すべての提出作品 アンケート、感想文
芸術的な感受	○漢字仮名交じりの書、漢字の書（古典、創作）	すべての提出作品

や 表 現 の 工 夫	仮名の書の学習を通して引き起こされた美的な感動を豊かな感性に昇華させ、自己表現のエネルギーとし、創造的な表現の工夫を実践できたかどうか。	書道理論ノートの記入状況 アンケート、感想文、 授業中の発表
創 造 的 な 表 現 の 技 能	○漢字仮名交じりの書を通して主体的な表現能力を伸ばし、様々な構想に基づく創造的、個性的な表現技能が身に付いたかどうか。 ○漢字の書を通しては、基礎的な技能を身につけ、さらにその能力を伸ばして行こうとする意欲的な取り組みがあるか。 ○仮名の書を表現するために必要な線質の特性を理解し、感興や意図に応じた適切な表現技能を身につけているかどうか。	すべての提出作品 アンケート、感想文
鑑 賞 の 能 力	○日常の中の書の実用的役割、芸術的役割についてじゅうぶん理解出来、書の文化、伝統、美的な価値について深く造詣することができたか。 ま美しいものをそのまま深く味わっているか。	ノートの記入状況 感想文

3 担当者からのメッセージ

あらゆる書に対して「感動」を覚えられるように、一人一人の個性を大切にしながら感性と実践的技法をのばしてゆくことを学習の大きな目標にしています。

練習する古典や創作など、たいいていの場合各自が最高の方法で表現すると思いますが、その中でいかにより芸術性豊かに実践出来たかどうかが問われるところとなります。

芸術性が豊かな個性であるように個々の能力や才能をのばしてゆけたら良いと思います。

それにはまず基本を忘れずに、1時間の中での進歩、学期を通しての進歩、一年間の授業を通しての進歩と、一年間の学習の進歩がしっかりと感じられるような取り組みに期待したいと思います。

書道Ⅰの学習を通して、書というものの存在が身近なものに感じられるよう、また書に対する愛着と尊敬の念が感じられるようになることを願っています。日本人としての誇りと認識を持ちながら、グローバルな観点から書道の発展のためこの学習が結実することも願って止みません。